演題４に対する Q&A

Q: 動画撮影をして教育教材にまで作り上げていく上で最も大変だったり困ったことは何ですか。また気を付けていた事などがあれば教えていただきたいです。

A: 気をつけたこと：細かくシナリオを作ってしまうと動画自体が長くなり、視聴時間も長くなるため、できる限りポイントを絞ったものにしました。

大変だったこと：動画はシミュレーション動画としました。ナレーション１名、撮影者１名、演者３名で撮影に取り組みました。ナレーションは後からつけるのではなく、撮影しながらナレーションを入れました。撮影中ナレーションが詰まることや撮影のアングルを変更することもあり、試行錯誤しながらの撮影でした。シーン 1．シーン 2．というように分けて撮影し、何度も撮り直すシーンもあったので撮影が一番大変でした。

困ったこと：動画編集に関する知識が乏しく、当時の師長さんにお力添えを頂くなどし、なんとかそれぞれのシーンを繋げ教材を作成することができました。

Q: アンケートで「イメージできない」、「術中看護が理解できたか」にいいえと答えた１名について、どのような理由であったのか。

A: 「術中看護は実際にしてみないとわからない」との内容でした。個人情報ですので全文をお答えすることはできませんが、自由記載欄で注意点は動画で見てわかったという内容の回答を頂きましたので注意点は伝わったと思っております。

Q: 視覚的教材を使っての外回り看護のオリエンテーションは効果的だと思います。以下の点について教材の中に説明はありますか。

１．術中トラブルシューティングの方法

２．緊急ロールアウト時の対応について

A: どちらも今回の教育教材に説明はありません。あくまで、当院でのスタンダードな RARP 外回り看護に関することです。

1：インテュイティブからの勉強会を実施し、手術室スタッフによるシミュレーションの経験はありません。

２：フローチャートを作成し、実際に緊急ロールアウトした事例もあります。スタッフ全員がトラブルシューティングに対応できることは今後の課題です。

Q: RARP の外回り担当となるには、ラダーレベルや経験年数、それ以前の他手術でのチェックリストや評価が関係しますか。

A: ラダーレベルや看護師経験に関係はありませんが、入職や異動で手術室経験がない場合は、ある程度手術室のことや全身麻酔の外回り看護を知った上で担当して頂いています。理由として、今回の看護研究を始める前からほとんどのスタッフがロボット手術のイメージは未知の世界であり、ロボットがどのように動いて、どのように手術に関わるのかなどわからないことだらけな上に、手術自体の経験がないとなると安全な手術看護は提供できないという点からです。他の手術でのチェックリストはありませんが、各科リーダー、サブリーダーの意見や師長・副師長の評価は関係しています。